

ネパールにおける新生児蘇生法研修導入事業

1. ネパールは新生児死亡率が高く、大きな要因の一つは新生児仮死である。基礎的な処置はHBBというガイドラインが採用されているが、①医師向けの高度な治療は標準化されていない、②地方のコメディカルはHBBも手順通りに行えていない状況であり、現地の専門家は高度な医療技術と広範な医療者の技術獲得に対する課題感が非常に強い。
2. ネパールにおいて、医師により高度な、コメディカルにより基本的な新生児蘇生法が標準化された方法で適切に行われるようにする。また、必要な研修が確立し、高品質な研修が自律的に行われることで新生児死亡率の低減に寄与する。
3. 日本が開発し、他国での柔軟な運用や最適化が整備されている新生児蘇生法の臨床及び研修体系である「NCPR」をベースとし、その背景にある手法を用いて、ネパール小児科学会と、新生児蘇生法に係るガイドラインや教材の策定能力強化、トレーナーの養成・能力強化研修及び研修事業管理体制整備のための本邦研修及び専門家派遣を行う。
4. 2025年度末までに臨床プロトコルと研修パッケージが確立され、2027年度末までに全7州の研修機関や66箇所の研修所で本事業で育成された認定トレーナーが研修を行い、周産期医療従事者の70%以上が新生児蘇生法研修を受講する。

